

琉球古典音楽野村流保存会ブラジル支部
創立六十周年記念式典並びに免許伝達祝賀公演

式次第

1) 移民・会員先亡者への黙禱

2) 挨拶 六十周年記念祝典祝賀会 実行委員長 米須清崇
挨拶 野村流保存会ブラジル支部 支部長 新城盛春

3) 教師、師範免許状伝達授与式

受状者	三線教師	金城 秀樹 ルカス
	三線師範	吉村 尊雄 アンデルソン

琉球箏曲保存会師範免許状伝達

受状者	箏 師範	新城 えみ ヘナタ
	箏 師範	大嶺 初枝

4) 六十周年記念 記念表彰 感謝状

受賞者 新垣信光・諸見里安吉・大嶺真治・高江洲義栄・米須清崇・城間秀子

5) 謝辞 六十周年記念 感謝状相談役 新垣信光

6) 六十周年記念記念品交換

7) 祝辞 ブラジル沖縄県人会/沖縄文化センター 会長 高良律正
祝辞 古典音楽野村流保存会(本部) 会長 宮城幸盛

創立六十周年記念祝賀公演プログラム

1) 古典音楽斉唱・一般会員

かぎやで風節・辺野喜節・揚作田節

- 踊り — 玉城流玉扇会城間和枝琉舞道場
- 歌・三線 — 宮城幸盛・仲宗根盛榮・上原伸浩・稲嶺盛律・大田守昭・喜友名朝教・金城サチ子・新城盛春・米須清榮・新垣信光・大嶺真治・金城秀樹・新城盛久・新垣盛茂・高良俊弘・サンテ レオネーロ・田野栄昭・田野美恵子・神谷ラファエル・大城ヂエーゴ・ペガウ チアーゴ・岡崎ギレルミ・岡崎 ルアーナ・岡崎玉寄スージー・金城奈美枝・照屋昭夫・平良アマング・カルロス エドゥアルド・仲里 グスタボ・島袋エレーナ栄子・照屋なおき・安里 嗣晴・上原 悠資・銘苺 マリ一ナ・照屋 まゆみ・奥間 恵・上原 良・金城 美木・加野 知恵美・比嘉 エライーネ・比嘉 アマンダ・照屋 マウロ。
- 事曲 — 瀬名波恵子・城間秀子・大嶺初枝・新城えみ・新城なおみ・天願ユリ・宮原ジャーネ・上江田幸子・波平ちえみ・宮城まり・上原ゆきみ
- 笛 — 石嶺聖士
- 胡弓 — 吉村尊雄
- 太鼓 — 小波津清

かぎやで風節

きゆ ふく なう たてい ついぶ う はな ついゆ ちゃ
今日ぬ誇らしやや 何にぎやなぎやな譬る 蕾でい居る花ぬ 露行逢たごとぐとう
意味 (今日の嬉しさは何たとえようか、つぼんでいる花が露に出会ったようだ)。

辺野喜節

んじゅ き はな さ ざ んじゅ ましらさ
伊集の本の花や あんきよらさ咲ちゆい わぬんも伊集やとて 真白咲かな
意味 (伊集の本の花は 真白な花であんなに美しく青らかに咲いている。私も伊集の本のように美しくありたいものである)。

揚作田節

ふたふあ んじゅ まち ぢゅ
二葉から出ていくとしがふいたら いわをだち松ぬむてい清らさ
意味 (発芽して最初に出る二枚の葉のことから生しょうじて(育って)、幾年いくとしが経たったのだろう。大きな岩を抱くまでに茂った松の美しいことよ)。

2) 本貫花。ちんさぐの花

踊り	—	玉城流小太郎会大嶺初枝琉舞道場
歌・/三線	—	新城盛春・米須清栄・新垣信光・大嶺真治・金城秀樹・新城盛久・ 新垣盛茂・高良俊弘・田野栄昭・田野美恵子・神谷ラファエル。
事曲	—	城間秀子・大嶺初枝・天願ユリ・宮原ジャーネ・上江田幸子・ 波平ちえみ・宮城まり・上原ゆきみ
胡弓	—	吉村尊雄
太鼓	—	小波津清

はる やまかわ ち うか さくら あち さとう ま
春ぬ山川に取り浮ぶ桜 すくい集みていどう 里や待ちゆる (金式節)。

しらしはいかわ なが さくら うみさとう ぬ
白瀬走川に 流りゆる桜 すくてい 思里に 貫ちい はきら
あかちゆぬちばな さとう しらちゆぬちばな い
赤糸貫花や 里にうちはきてい 白糸貫花や よ得りわらび (白瀬走川節)。

琉球舞踊・本貫花。ちんさぐの花

意味 (金式節・春の山川に取り浮かぶ桜のはなびらをすくい集めて私はあなたをお待ちするのです。白瀬走川・白瀬走川に流れ浮かぶ桜の花びらをすくい集めて花輪にし、愛しい人におかけいたしましょう。赤い糸で貫いた花輪は愛しい人に、白い糸の花輪は子供たちよ、もらいなさい)。

3) 古典音楽独唱・【師範・教師男性】

干瀬節

【歌・三線】 ペガウ チアゴ

【事曲】 大嶺 初枝

さとう い やど ふゆ ゆ た かた
里とめばぬゆでい いやで言ゆめう宿 冬ぬ夜ぬでいし 互げに語やびら

意味 (愛する貴方であればどうしてお宿をお断りしましょうか。どうぞお入りください。冬の夜長をよもすがらお互いに語り明かしましょう。と女の慕情を歌ったもおである)。

二揚下出し述壊節

【歌・三線】 金城 秀樹

【事曲】 新城 えみ

い^{んかし}な昔なるい あ^{かた}わり語らたる な^な馴^なりしい言葉ぬ く^{くとうば}たんうちに

意味 (早や昔のことになってしまったのか。お互いのつらさを語り合った言葉が、まだ朽ちもしない中に)。

二揚下出し仲風節

【歌・三線】 吉村 尊雄

【事曲】 城間 秀子

結^{むすい}ばらん 片^{かたいとう}糸^あぬ 逢^{うらみ}わん 恨^{ついちぶい}みとうてい つい^つむる月日

意味 (結ばれない片思いに、恨めしく思いながら、月日だけが重なっていく。回想にひたりながら、悲しみを抱きしめているような歌)。

4) 古典音楽斉唱 【若い新人会員】

渡りぞう・安波節・秋の踊

歌・三線 — 岡崎ギレルミ・岡崎 ルアーナ・岡崎玉寄スージー・金城奈美枝・照屋昭夫・平良アマダ・カルロス エドゥアルド・仲里 グスタボ・島袋エレナ 栄子・照屋 なおき・安里 嗣晴・上原 悠資・銘苺 マリーナ・照屋まゆみ・奥間 恵・上原 良・金城 美木・加野 知恵美・比嘉 エライーネ・比嘉 アマンダ。

事曲 — 天願ユリ・宮原ジャーネ・波平ちえみ・宮城まり・上原ゆきみ

笛 — 石嶺聖士

胡弓 — 吉村尊雄

太鼓 — 小波津清

渡りぞう

意味 (この曲は琉球王朝時代から伝わる、琉球古典音楽になります。琉球の三線音楽では極めて珍しい、唄のない、いわゆるインストゥルメンタルの曲になります)。

安波節

意味 (安波の真の崖(絶壁)は心に風にあたって涼むところである宇久の松下は寝てしまう所)。

秋の踊り

意味 (「歌は田島利三郎が明治26-28年頃、沖縄滞在中に詩をつくり、仲毛芝居にもっていったところ、役者たちがいい歌なので 節をつけて踊ってみようということになった。田島氏の詩は「道輪口説」に のせたらうまくあうので採用)。

5) 鳩間節

踊り	—	太圭琉華の会伊集ジュリアナ琉舞練場
歌・三線	—	上原伸浩・稲嶺盛津・仲宗根盛榮・吉村尊雄
事曲	—	瀬名波恵子
笛	—	石嶺聖士
太鼓	—	小波津清

琉球舞踊・鳩間節・

歌詞意味 (鳩間中森の高台に走り上り、くばの木の下に走り上ってみた。美しく生えた中森のくばの木よ。美しく並んだ山頂のくばの木よ。稲を積んだ船の面白さよ。粟を積んだ船のとても見事なこと。前の海を見渡すと稲を積みに行く船、稲を積み帰ってくる船の面白いことよ)。

6) かせかけ

踊り	—	玉城流玉扇会城間和枝琉舞道場
歌・三線	—	上原伸浩・稲嶺盛津・米須清榮・金城秀樹
事曲	—	城間秀子・上江田幸子・
笛	—	石嶺聖士
胡弓	—	吉村尊雄

琉球舞踊・かせかけ・

意味 (古典女踊りの中でも、その心映えのやさしさと美しさから愛されている演目。昔は身分の上下を問わず、家族の着物は糸作りから着物に仕立てるまですべて女性の手仕事であった。単調な労働の中に愛しい人を思う心が描かれる。手に持つ摺と杵の小道具の色合いも美しい。摺を杵にまきつけていく時の手の動きと、それにつれて視線を移動させていく所作との調和が難しいとされる。女踊りの衣装紅型を右肩袖抜きにして働く女性の姿を視覚的に伝えている。古典女七踊りの一つ)。

7) 古典音楽独唱・【師範男性】

本花風節

【歌・三線】 仲宗根盛榮 (野村流保存会副会長)
【事曲】 瀬名波恵子 (琉球箏曲保存会教師)

みぐしく う まに をうじ ち むし ぐいん
三重城にぬぶてい 打ち招く扇 またんみぐり来て結ぶ御縁

意味 (三重城にのぼって (出船) に打ち招く扇は、再び巡り会うご縁を結んでくれるでしょう)。

金式節

【歌・三線】

金城サチ子（野村流保存会本部）

【事曲】

瀬名波恵子（琉球箏曲保存会教師）

ちん がき あふす だき しらかち うんな
くばや金式くばに 竹や安富祖竹 やにや瀬良垣にはいや恩納

意味 （クバは金武のクバがよく、竹は安富祖の竹がよい。クバ笠の骨組を作るための竹削りは瀬良垣、クバ笠張りは恩納がよい）。

休憩（休憩時間 10 分）

8) 古典音楽斉唱・【師範・教師男性】

天川節・ちるれん節

歌・三線 — 宮城幸盛・仲宗根盛榮・上原伸浩・稲嶺盛津・大田守昭・喜友名朝教・
金城サチ子・新城盛春・米須清栄・新垣信光・大嶺真治・小波津清・
金城秀樹。

箏曲 — 城間秀子・上江田幸子・大嶺初枝・新城えみ。

笛 — 石嶺聖士

胡弓 — 吉村尊雄

あまかわ いち あし うむ はに ちじ し
天川ぬ池に 遊ふうしどういぬ 思い羽ぬ契り ゆすや知らん（天川節）。

くあんまが にが うふしゅう ひやくせ ゆいえ
子孫するてい 願たぐとうかなてい 大主ぬ百歳 う祝しやびら（ちるれん節）。

意味 （金式節・天川の池にいる仲睦まじいおしどりのように、 私たちが深く思いあい、契りを交わしたことをまだ誰もしりません。ちるれん・子や孫が揃って、願ったことが叶い、村の頭の百歳を お祝いしましょう）。

9) 高平良万才

踊り — 玉城流小太郎会千舞知花千恵子琉舞道場

歌・三線 — 上原伸浩・稲嶺盛津・新城盛春・米須清栄。

事曲 — 新城えみ・新城なおみ

笛 — 石嶺聖士

胡弓 — 吉村尊雄

太鼓 — 小波津清

琉球舞踊・高平良万才

意味踊りの主題となるのが「万才口説」で、親の仇を討とうと万才姿に身をやつし、編笠を深く被り、敵を求めて旅に出た兄弟が末吉宮に参拝し、そこから眺めた景色の素晴らしさに目をやり、改めて二人の秘めた決意を確認する内容となっている。緊張の中での道行きの場面である。二曲目の「万才かふす」では旅芸人の京太郎になりすまし、獅子頭、馬頭を持ち、敵の面前で踊る設定。「おほんしやり節」では猫や鼠のまねなどして空手風に踊り、最後の「さいんする節」は逃げ惑う敵、高平御鎖を追い回し、見事目的を果たして帰って行く場面で、全体を通して大変劇的な構成となっている。各所に見所があるが、特に「おほんしやり」の「隣りの耳切れ」の所で観客に背を向け奥へ歩きながら、左右の足を交互に挙げる「二段がまく」の所作に高度な技術が要求されるもので、重要な部分である。元は二人踊りだが、近年は一人舞いも多くなっている。

10) 古典音楽独唱

本調子述壊節

【歌・三線】 米須清栄

【事】 大嶺 初枝

さらばたち別ら^{わか} ゆす目ねんうちに^み やがてい暁ぬ^{あちつ} 鳥ん鳴ちゆさ^{とうい}

意味 (それではお別れしましょう、人目につかぬうちに。やがて暁の鳥も鳴くでしょう)。

赤田風節

【歌・三線】 新城盛春・

【事】 新城 なおみ

語いたや^{かた} 語いたや^{かた} 月ぬ山ぬ端に^{ついち} かかるまでいん^{ふあ}

歌詞意味 (語りましょう、語りましょう、月が山の稜線に懸かるまで)。

仲村渠節

【歌・三線】 宮城幸盛 (野村流保存会会長)

【事曲】 瀬名波恵子 (琉球箏曲保存会教師)

仲村渠すべどう^{なかんかり} 真簾は下ぎてい^{ました} あねらわんとうまば^{しぬ} 忍ていいもり

意味 (仲村渠家の裏戸の簾を下げておきますから、確認したら人目につかぬようにいらしてください。伊江島にある旧家の名前。村集落の中央に位置する場所を仲村渠と呼んでいた)。

11) 松竹梅

踊り	— 玉城流小太郎会大嶺初枝琉舞道場
	— 玉城流小太郎会千舞知花千恵子琉舞道場
歌・三線	— 上原伸浩・大田守昭・新城盛春・米須清栄・
事曲	— 大嶺初枝
笛	— 石嶺聖士
胡弓	— 吉村尊雄
太鼓	— 小波津清

琉球舞踊・松竹梅

意味「松」は子孫繁栄と長寿、「竹」は実直や義理堅さ、「梅」は美しさ。「梅」の美しさは「雪に埋もれながらも芽をだして、最後には綺麗な花を咲かせる」という苦難を乗り越えて力強く生きる人間の姿、「鶴亀」は長寿を表現しているそうです。

12) フィナーレ

閉会の言葉